

心癒やす宗教者 育て

龍谷大が今春、養成プログラム

被災地や病院で宗教者として心のケアに当たる「臨床宗教師」を養成するため、龍谷大は27日、教育プログラムを実践真宗学研究科に4月から開設すると発表した。東日本大震災で必要性が唱えられるようになり、既に始めている東北大と連携する。

臨床宗教師は、僧侶や神職、神父、牧師など宗派を問わず、医療スタッフらと協力して、苦しむ人の話を聞き、悲しみに寄り添う。病院や軍隊、学校で活動する欧米の聖職者「チャプレン」を参考に、東日本大震災の被災者の相談

被災者や患者をケア

に乗っていた医師が提唱した。

プログラムは1年で、カウンセリングや宗教について学び、被災地や病院、高齢者福祉施設で実習をする。受講者は5〜10人を想定する。初年度は研究科の院生や修了者らが対象だが、2015年度以降は外部の宗教者にも広げる予定。

担当する文学部の鍋島直樹教授は「仏教精神でがん患者らのケアに取り組んできた大学の伝統を生かし、人々に寄り添える宗教者を育てたい」と話している。

(梶井進)